



## イランと日本のバリアフリーの掛け橋に！

### ■ 実施団体：

特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会

### ■ 対象国・地域：

イランイスラム共和国  
アルボルズ州キャラジ市

### ■ 現地カウンターパート

キャラジ市役所



### ■ 協力内容：

・日本のバリアフリー（以下、BF）専門家がキャラジ市BF行政担当者へ、BF研修のワークショップを実施し、現地の人のみでBFワークショップを企画運営できるBF専門家を育成する。また、一般市民向けBFワークショップを実施し、一般市民の間での障害理解を促進する。

・イランにおけるBF行政担当者が、障害当事者などの関係者とのネットワークを構築し、関係者が参加するBFネットワーク会議が定期的に実施される。

### ■ 団体のこれまでの取り組み：

・2006年創設。日本のリハビリやBFの知識や技術をイランの障害者に伝え、生活の自立を図るために支援活動を開始。現地でBFに携わる人材を育成するための研修会やマニュアルの作成・配布に加え、現地の専門家の日本への招聘を行っている。

### ■ 事業実施の背景：

・イランは国内の交通事故の件数が世界平均の約20倍であり、それが原因の重度障がい者が多く、大きな社会問題となっている。2009年には障害者権利条約に批准し、行政主導のバリアフリー会議が開催されるなど、バリアフリーの機運が高まっている。

## イラン国の課題と成果

**課題①** 障がい者の目線に立った施設整備が不十分（歩道に段差があり車いすでの通行が困難等）であり、障がい者の外出のハードルが高い。

**成果①** 行政によるバリアフリー整備事業の計画段階から障がい当事者が参加、協力することにより、実際に障がい者が安心して使用可能な施設整備ができるようになった。

**課題②** バリアフリー整備を適切に実施できる能力を持つ職員が現地にいない

**成果②** 本邦研修の経験を経て、現地職員のみで3日間に亘るバリアフリーワークショップを開催。現地バリアフリー整備を障がい当事者を交えて具体的な部分まで検討できるようになった。

## 事業の波及効果



### 本邦研修の機会を通じた行政同士の協力！

・イランからBF専門家を招聘した際、キャラジ市役所土木課と秦野市役所土木課職員同士で、ミーティングや街歩きを歩道整備の図面や写真を使用しつつ実施（市役所周辺のBF整備前と整備後の歩道を車いす使用者と一緒に歩いて点検、障害者にとってどのように使いやすくなっているのか等を比較）。

・海外の専門家とこのような機会を持つ事は初めてであり、イラン側のみならず、日本側にとっても普段行っている街づくりを再確認できたなど、双方にとって本邦研修の機会が活かされた。